



1 4 10 17

児童養護施設等を巣立つ子どもたちの自立を支援 タイガーマスク運動支援プロジェクト

児童養護施設にランドセルを贈るタイガーマスク運動の先駆者、前橋市在住の河村正剛さんの想いを受けて、前橋市が2017年に導入したタイガーマスク運動支援プロジェクト。
市内の児童養護施設などから社会へと巣立つ子どもたちのサポートを行っています。



虐待、養育拒否、貧困などさまざまな事情により、親から離れて暮らす子どもたち。施設に在る間は生活に困ることはほとんどありませんが、多くの場合、高校卒業と同時に施設を退所しなければいけません。親から支援を受けられるケースは少なく、進学を諦めて就職する子どもが大半を占めています。
前橋市の児童養護施設「地行園」でも、2016年春退所した5人の内4人が就職し、一人暮らしを始めました。
一人が家事の一切をこなし、働いてお金を稼いでいかなければならない。そんなプレッシャーと共に、子どもたちには経済的負担が重くのしかかります。アパート等の住居費や家具・生活用品の購入費。車社会である群馬県では運転免許の取得も必須となってきます。「公的支援ではまかないきれないため、ほとんどの子どもたちが高校在学中から部活動や友達と遊ぶことを諦め、アルバイトをして退所後の資金を蓄えています」と高橋悦史施設長(2017年現在)は実情を明かします。

タイガーマスク運動支援プロジェクトでは、当面の生活費から公的支援を除いて不足すると思われる費用(1人当たり15万円※2020年度から20万円)を支援。支援を受けた卒業生の大貫浩之さん(仮名)は、「給料をもらえるまで、お金の面で心細さを感じずすんだ」と話します。「働き始めて15万円というお金の重みを実感した」と話すのは、天野真人(仮名)さん。最初に就職した会社が続かず一時収入が途切れた天野さんにとって、お金だけでなく、自分たちを支援しようと考えてくれる人がいるという事実が再就職への大きな支えになったそう。「将来は自分もふるさと納税をして、支援してくださった方の想いに応えたい」と想いを寄せてくれました。

虐待、養育拒否、貧困などさまざまな事情により、親から離れて暮らす子どもたち。施設に在る間は生活に困ることはほとんどありませんが、多くの場合、高校卒業と同時に施設を退所しなければいけません。親から支援を受けられるケースは少なく、進学を諦めて就職する子どもが大半を占めています。
前橋市の児童養護施設「地行園」でも、2016年春退所した5人の内4人が就職し、一人暮らしを始めました。
一人が家事の一切をこなし、働いてお金を稼いでいかなければならない。そんなプレッシャーと共に、子どもたちには経済的負担が重くのしかかります。アパート等の住居費や家具・生活用品の購入費。車社会である群馬県では運転免許の取得も必須となってきます。「公的支援ではまかないきれないため、ほとんどの子どもたちが高校在学中から部活動や友達と遊ぶことを諦め、アルバイトをして退所後の資金を蓄えています」と高橋悦史施設長(2017年現在)は実情を明かします。
タイガーマスク運動支援プロジェクトでは、当面の生活費から公的支援を除いて不足すると思われる費用(1人当たり15万円※2020年度から20万円)を支援。支援を受けた卒業生の大貫浩之さん(仮名)は、「給料をもらえるまで、お金の面で心細さを感じずすんだ」と話します。「働き始めて15万円というお金の重みを実感した」と話すのは、天野真人(仮名)さん。最初に就職した会社が続かず一時収入が途切れた天野さんにとって、お金だけでなく、自分たちを支援しようと考えてくれる人がいるという事実が再就職への大きな支えになったそう。「将来は自分もふるさと納税をして、支援してくださった方の想いに応えたい」と想いを寄せてくれました。

まちに新たな光とにぎわいを
光のまちづくり推進プロジェクト
11 17



前橋が誇る風景や歴史的建造物をライティングアップすることで、新たな夜のにぎわいを創出するだけでなく、眠っていた地域資源の再認識や、まちのPRへ繋がります。これまでは、国重要文化財「臨江閣」のライトアップを、アーティストの高橋匡太さんとともに手がける事業などを行ってきました。市民の方からも「ゆっくりと立ち止まって臨江閣を眺める機会や、前橋の歴史に目を向ける機会が増えた」と好評です。

新しい家族と出会える機会を
犬猫の命を繋ぐプロジェクト
16 17



不幸な犬猫を少しでも減らし、ペットと飼い主が幸せに共存するまちを目指すため、保護された犬猫の維持管理費(餌代や、狂犬病の予防注射、猫の去勢・不妊治療などの費用)をサポートします。例えばあなたの寄附1万円が、通常は6日で処分対象となる保護犬・保護猫17頭が30日間命を繋ぐことができ、新しい家族の元へ渡る可能性が大幅に高くなります。前橋市では2019年度、154頭の犬猫が新たな飼い主を見つけました。

読書で子どもの心を豊かに
子ども図書館 図書充実プロジェクト
4 17



子どもたちの想像力や好奇心を育み、心を豊かにする絵本や児童書。乳幼児期や学童期の子どもたちは読書を通して、まだ経験したことのない世の中を知り、他者への思いやりを学ぶと言われています。このプロジェクトでは、関東最大級の子ども図書館「前橋子ども図書館」の蔵書の充実のほか、赤ちゃんと絵本を一冊プレゼントするブックスタート事業の推進などを行い、親子で本に親しむきっかけづくりに取り組んでいます。

- タイガーマスク運動支援プロジェクト** (1 4 10 17) 児童養護施設などから巣立つ子どもたちへ向けた支援のほか、教育や福祉など幅広い分野において、社会生活を送るうえで、支援が必要な子どもたちの暮らしを応援する取り組みに活用します。
- 子ども図書館 図書充実プロジェクト** (4 17) 読書や絵本の読み聞かせを通して、次世代の子どもたちの豊かな心を育むため、子ども図書館の蔵書充実にも活用します。
- 犬猫の命を繋ぐプロジェクト** (16 17) 様々な問題から保護される犬や猫などを減らし、ペットとの幸せな共生を目指すための取り組みに活用します。
- 光のまちづくり推進プロジェクト** (11 17) 前橋市民に親しまれてきた風景や建造物に光を当てることで、地域資源の再認識やまちのPRに繋げる事業に活用します。
- スローシティ運動推進プロジェクト** (5 11 12 17) 先人たちが培ってきた赤城南麓の豊かな自然や食・伝統ある文化、歴史、生活スタイルを継承し未来に繋ぐ取り組みに活用します。
- 広瀬川河畔整備プロジェクト** (11 17) 水と緑に溢れたまちなかで、人と人、人と芸術が出会う魅力的な交流空間を創出するための広瀬川河畔整備に活用します。
- 前橋ブランド・シティプロモーション推進プロジェクト** (12 17) 誇れる食や文化、暮らしなどを、磨き発信し、新しい価値の創出と共にブランドの向上を図るプロモーション活動に活用します。
- 前橋工科大学 未来へつなごうプロジェクト** (4 9 17) 多くの工学人材を輩出してきた前橋工科大学が、学生支援や国際交流などの充実により、さらに全国に誇れる大学へ躍進するための取り組みに活用します。
- 未来型政策 推進プロジェクト** (4 7 8 15 17) ビッグデータの活用研究やマイナンバーカードの活用促進など、未来に向けて価値を創造する政策に活用します。

- 地域人材の育成・定着プロジェクト** (4 8 9 17) 若者の地元定着に向けて、夢や希望、熱意を持つ若者を支援し、良い刺激や経験を提供するための環境づくりなどに活用します。
- 自転車のまち前橋 推進プロジェクト** (3 11 13) サイクリストに愛される環境整備や赤城山ヒルクライム大会、クリテリウム大会の開催など自転車のまち前橋の推進に活用します。
- 前橋文学館 萩原朔太郎大好きプロジェクト** (4 17) 萩原朔太郎をはじめ、多くの文学者を輩出した詩のまち前橋。斬新で質の高い文化空間創出のため、前橋文学館の展示・資料の充実等に活用します。
- 南スーダン陸上選手等 支援・交流プロジェクト** (10 17) 「スポーツを通じた平和促進」に貢献するため、同国選手団の事前キャンプ受け入れ事業や、各種交流事業等に活用します。
- プロスポーツ 支援・連携プロジェクト** (4 17) 「ザスパクサツ群馬」Jリーグチームザスパクサツ群馬の飛躍に向けて、クラブの魅力向上やチーム強化となる支援・連携事業に活用します。
- 「群馬クレインサンダース」プロバスケット1部リーグ昇格に向けたクラブの魅力向上となる支援・連携事業に活用します。**
- 「群馬ダイヤモンドペガサス」野球独立リーグに所属する「群馬ダイヤモンドペガサス」の飛躍に向けて、クラブの魅力向上となる支援・連携事業に活用します。**
- 「群馬グリフィン・レーシングチーム」サイクルロードレースチーム「群馬グリフィン・レーシング」チームの飛躍に向けて、チームの魅力向上となる支援・連携事業に活用します。**
- 市長に任せようコース** (4 17) 防災・安心安全・都市整備・環境・健康・福祉・教育・文化など、誰もが心豊かに暮らせるためのまちづくりに活用します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標

2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

「持続可能な開発目標 (SDGs)」について、詳しくは公式サイトへ
http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/